



ご挨拶

今日は“*A-Winds*67”2024年夏の演奏会にお越し下さり誠に有難うございます。
「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」お城の麓“DMG MORI やまと郡山城ホール”で皆様方とお逢いできましたことに、団員一同心より御礼申し上げます。四季折々に開催する、*A-Winds*の定期演奏会も67回目を数え、並びに1999年に発足以来、創立25周年を迎えることができました。これもひとえに我々*A-Winds*の音楽活動をこよなく愛して下さった皆様方の御指導御支援の賜物と、厚く御礼申し上げます。

本日は、日頃音楽活動をご指導いただいている*A-Winds* ミュージック・アドバイザー潮見裕章氏を客演指揮者にお招きしました。かつてカラヤン、バーンスタインといった世界トップの指揮者に師事、「世界のオザワ」と称され、本年4月にお亡くなりになられた小澤征爾氏を彷彿させる、我々にとっての情熱の指揮者：潮見裕章氏と、25年目今最高の*A-Winds*の演奏をお楽しみいただければ幸いです。

明日の夢は 今日の情熱 最高を超える

*A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラ 団長 魚谷 昌克
＊

本日は会場に足をお運びいただきまして誠にありがとうございます。
本日の演奏会のテーマは「踏みだす先の、あたらしい景色」です。
25周年記念演奏会を終え、さらに演奏会の回数を重ねていくことができますのも皆様のおかげであることを団員一同感謝しつつ、その次の目標に向かって突き進んでいきます。これからもより良き音楽を希求し、100回、150回、30年、50年と続けていく所存です。そのための次の第一歩をとの思いで、始まることを念頭に、目前に迫る吹奏楽コンクールに備え、団員のレベルアップも考慮し選曲しました。

本日は最後までゆっくり過ごして頂き、楽しんで頂きたいと思っております。

“*A-Winds*67”2024年 夏の演奏会 実行委員長 久野耕三



A-Winds からのお知らせ

“*A-Winds* 68”2024年 秋の演奏会のご案内

2024年11月10日(日)

DMG MORI やまと郡山城ホール 大ホール

募金のお礼とご報告

*A-Winds*では演奏会開催ごとに義援金を募っており、演奏会終了後に「日本赤十字社」及び「奈良県新型コロナウイルス感染症対策基金」等に全額納めております。

*A-Winds*66では24,950円を「日本赤十字社／令和6年能登半島地震災害義援金」の受付口座に納めました。

また、募金を開始した *A-Winds*38 から *A-Winds*66 まで、総額247,884円の募金をお預かりし、各受付口座に納めております。

募金にご協力いただいた多くの方々に、団員一同厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。



*A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラ

Piccolo

佐藤 由加里

Flute

佐藤 司(印刷)
魚谷 陽子
大塚 由起
南 結香♪
谷田 和奏

Oboe

桶谷 牧子(渉外)
白井 秀

Bassoon

桶谷 美咲(プログラムノート)
鈴木 沙織
上田 良子

B♭ Clarinet

竹村 明恵
八木 彩乃
中嶋 有沙
吉本 樹
吉崎 淳子
中山 詩織
中山 由香(マスコミ)
西崎 潤人

Alto Clarinet

大西 晴己

Bass Clarinet

森口 悠斗

Alto Saxophone

島田 博一
小山 飛鳥

Tenor Saxophone

初岡 和樹

Baritone Saxophone

八木 理

Horn

久野 耕三 ♪
大田 雅美
坂元 葉(ミニレター)
西島 華奈子♪
中西 花菜

Trumpet & Cornet

魚谷 昌克
谷田 弥生
山本 洋介
大西 伸幸
井上 寛治
乙川 佳世
谷田 雪月

Trombone

小泉 文浩
田中 由美
赤羽 孝文
寺阪 清貴
松本 麗
田中 智寛

Euphonium

尾登 勇介
原田 桃花
藤山 みらい
狭間 未玖乃

Tuba

吉村 優花
堤 正治郎♪
松下 幸平
鈴木 克美♪

Contra bass

佐藤 良一

Percussion

谷口 麻子(チラシ)
木津 尚子
松本 小夜子♪
川人 舞
三木 柚穂♪
森田 晶♪
梶本 雅子♪
乾田 春香♪

Piano

八木 真木

Stage Manager

河村 穰香 ♪

Announcer

境 貴子 ♪

団員合計 56名

♪ = エキストラ

♪ = 休団

♪ = 実行委員長

() = 係員

A-Winds メンバー募集

●募集パート

E♭ Clarinet	1名	⋮	Contra Bass	2名
B♭ Clarinet	2名	⋮	Percussion	3名
Horn	2名	⋮	Stage Manager	1名
Tuba	1名	⋮		

●*A-Winds*の活動趣旨(ウィンドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方

●ご自分で楽器を準備できる方 ●全ての活動に賛同頂ける方

●18歳以上の方 ●詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は<e-mail>a.winds.nara.contact@gmail.com



2024年 夏の演奏会

～ 踏みだす先の、あたらしい景色 ～



2024年6月16日(日) 14:00開演 (13:30開場)

DMG MORI やまと郡山城ホール 大ホール

主催 ● *A-Winds*奈良アマチュアウィンドオーケストラ

後援 ● 奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟



指揮：潮見 裕章

(*A-Winds* ミュージック・アドバイザー)



第1部

レナヴィス

RENAVIS by spelled of “NARA, A-WINDS”

○作曲：高 昌帥／Chang Su KOH

○出版：未出版

○演奏時間：約8分

20XX年XX月XX日、私は突然 *A-Winds* の幹部数人によって某所に呼び出され、驚愕の作曲依頼を受けた。それは以下の条件を伴うものであった。

- ・音楽的内容的に *A-Winds* の20周年を記念するものにする
- ・上演にあたっては演奏会のオープニングにもアンコールにも使えるようにすること

記念になる内容というのはまあいいだろう、しかしオープニングにもアンコー ルにも使えるって、一体どういうことなのか。私の乏しいイメージではオープニ ングとは華やかなファンファーレで、アンコールとは「蛍の光」みたいなそんな アレだ。その両方を兼ねるだなんてそんなこと出来るわけが無い！と内心想いながら、「……考えさせてくれ」と強がってみせるのが精一杯であった。話はこれで終わらない。後日再度幹部達に呼び出された私に更なる試練が襲いかかる。オープニングにもアンコールにも使えるだけで無く、別の音楽を付け足 すことで7分程度の作品としても成立するものを、と来るではないか！ これはつまりオープニングとして単独で演奏出来るAパートと、「蛍の光」の様な雰囲気でありながらもAパートと共通する素材を用いたアンコール用のBパートに、オプションのCパートを付け加えると合体して中規模の作品に変身する、そんなゲッターロボ(※)のような音楽を作れということなのか?? そんな馬鹿な!! 思わず自分の耳を疑う私をよそにプロジェクトは始動してしまい、このとき以降このプロジェクトはコードネーム「ゲッターロボ」と呼ばれることになる。

(※) ゲッターロボ：永井豪と石川賢原作の漫画とそれをアニメ化したテレビ番組。それぞれ特性が違い、単独でも活動出来る3機のゲットマシンが合体してゲッターロボとなる。

困り果てた私は、先ず委嘱主である「*A-Winds* 奈良アマチュアウィンドオーケ ストラ」の団体名から、最も特徴的な名称「NARA, A-WINDS」を取り出す。そして下記の表のようにそれらの文字を音に当てはめてみる。そうすると、「NARA, A-WINDS」は「ソラレウ、ラシソレミ」と読み替えることができる。何とかここまでは順調だ。ここからどう調理するかが問題なのだが、ここから先は勿論企業秘密である。

○まず、それぞれのアルファベットは以下の音にあたる。

ラ	シ	ド	レ	ミ	ファ	ソ
A	B	C	D	E	F	G

○次に、下へ順々にアルファベットをあてはめていく。そうすると全てのアルファ ベットに音があてはまる。

ラ	シ	ド	レ	ミ	ファ	ソ
A	B	C	D	E	F	G
H	I	J	K	L	M	N
O	P	Q	R	S	T	U
	V	W	X	Y	Z	

○しかし「H」はドイツ語で「シ」を意味するため、Hをシとし、Iをその1つ下の行に繰り下げる。そうして次以降は、再度順々にあてはめる。

ラ	シ	ド	レ	ミ	ファ	ソ
A	B	C	D	E	F	G
	H					

	I	J	K	L	M	N
O	P	Q	R	S	T	U
V	W	X	Y	Z		

そうして出来上がったのが、オープニング曲としての「PRELUDE」、アンコー ル曲としての「POSTLUDE（後奏という意味）」に、オプション部分を合体させて全体として「RENAVIS」。「RENAVIS」とは、生まれ変わる・再生する、という意味の「renatus」に、パワーを意味する「vis」を足した(タイトルまでもが合体ものでは無いか。偶然とは思えない) ラテン語である。*A-Winds* ミュージック・アドバイザーの潮見裕章氏に命名して頂いた。ラテン語を提案されるとは、博識だ!それぞれのパーツが合 わさって新たなパワーを持つ音楽に生まれ変わる、正にこの曲に相応しいタイトルを頂いて、心から感謝したい。かのリヒャルト・ワーグナーはこんな意味のことを言っている。

「作曲にあたっては全力で工夫を凝らせ。但し、その工夫ための苦勞の痕跡は 跡形もなく消し去ること」

この言葉にかなうものになったかどうか、聴衆の審判を待つばかりである。
(文：高 昌帥)

風がきらめくとき

(2024年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲-II)

Vernal Breezes

○作曲：近藤 礼隆／KONDO Noritaka

○出版：一般社団法人 全日本吹奏楽連盟／All Japan Band Association (Tokyo, Japan)

○演奏時間：約4分

「風 光る」という、春の季語があります。春の到来の喜びを風に託した言葉です。その風景や感情には何かがキラリと光る瞬間がある…、そんなことを思いながらこの曲を作りました。一見シンプルなこの曲を演奏する際には、表現に明確な意図を持つことが重要となるでしょう。一つひとつのスラーをどのように演奏するか、といった細かい視点も大切ですが、和声によって音楽にどのような重力が働いているか、曲の起承転結をどのように演出するかなど、俯瞰的な視点での演奏表現も追求していただけると嬉しいです。
(文：近藤礼隆)

このような作曲者の意図を踏まえ、曲の細部にもこだわりながら、風のように大きな曲の流れも意識して演奏いたします。

吹奏楽の為の第一組曲 変ホ長調

FIRST SUITE IN E^b for Military Band

○作曲：グスターヴ・ホルスト／Gustav Holst

○出版：Boosey & Hawkes

○演奏時間：約11分

1909年に作曲されたこの作品は、吹奏楽のためのオリジナル作品としては草分け的な存在といえます。当時、吹奏楽曲の編成はまだ定まっていなかった中、ほぼ現代の編成で書かれた最初の曲として位置付けられている名曲です。

全曲は『シャコンヌ』『インテルメッツォ』『マーチ』の3楽章で構成されています。各楽章の主題は第1楽章冒頭から派生したものであり、楽曲全体に統一感がもたらされています。

指揮者のフレデリック・フェネルが『もしバンド曲の本当の指揮者になりたいというならば、このスコアを徹底的に勉強して、可能な限りの角度でとらえて貰ってもらいたいと念願する。この曲と生活し、あらゆる方法をとおして身につけるべきであろう。』とまで述べたほど、音楽的な技術がふんだんに盛り込まれています。

楽章に分かれてはいるものの、作曲者のホルストは自筆の楽譜に「各楽章は同一のフレーズで構成されているため、この組曲は休みなしに通して演奏されることを望む」と記しています。今回はそのホルストの意向に沿い、全楽章を続けて演奏いたします。

第2部

メルヘン (2024年度 全日本吹奏楽コンクール課題曲-III)

Märchen

○作曲：酒井 格／SAKAI Itaru

○出版：一般社団法人 全日本吹奏楽連盟／All Japan Band Association (Tokyo, Japan)

○演奏時間：約3分

この曲は、目まぐるしく曲のテンポや雰囲気が変わっていくため、次々と展開していく楽しい物語のような構成になっています。また、基本的には自由な形式で書かれていますが、作曲された酒井さんによると「2つの重要な主題がある」のだそうです。その2つの主題は曲中で何度も出てきます。主題がどのようなフレーズなのかを是非考えながらお聴きください。ちなみに酒井さんによると「メルヘン」は「童話」「おとぎ話」を表すドイツ語ですが、この作品に特定のストーリーが存在するわけではないそうです。A-Windsが創り上げる「メルヘン」をぜひお楽しみください。

Music in the Air!

○作曲：アルフレッド・リード／Alfred Reed

○出版：Myrica Music Inc.

○演奏時間：約4分

この曲は2000年の夏、有名な作曲家A.リードが大阪の毎日放送から放送テーマ音楽の作曲を依頼され、同年11月に大阪を訪れて市内が一望できる超高層ビルの展望台に立ち、大阪の放送に相応しい曲のイメージ作りをして完成した曲です。2001年4月からテレビ放送開始時並びに終了時に、毎日放送のテーマ音楽として放送されています。耳にされたことのある方もいらっしゃるのではないでしょうか。

プラトンの洞窟からの脱出

Escape from Plato’s Cave

○作曲：スティーブ・メリロ／Stephen Melillo

○出版：Stormworks

○演奏時間：14分

1. 洞窟、苦闘、そして光より来し者!／The Cave, The struggle and to Man from the Light!
2. その者のメッセージ「壊れやすい心」／Message of the Man… (the Fragile Heart)
3. 脱出、光りへ／Escape..Into the Light

古代ギリシャのプラトンの『イデア論』は、「この世界には我々が生きている感覚世界の後ろに“イデア界”という本当の世界がある。」と説いています。そのイデア界には、永遠で普遍の雛形、私たちが自然の中で出会うさまざまな現象の原型があるとしました。我々が普段見たり触ったりしている個々の物事は、実はこのイデアという原型のコピーにすぎず、本当の知識はイデアを知ることによってのみ得られる、という考え方です。この考え方を、彼は『洞窟の比喩』によって説明しています。この比喩では、洞窟の外の世界はイデア界に、洞窟の中の世界は感覚世界に対応させています。

『人間は地下の洞窟に住んでいて、入り口に背を向け、両足をしっかりと縛られている。そのため洞窟の奥の壁しか見ることができない。そして後ろには高い塀があって、この塀の向こう側を繰り人形を掲げた人形使いたちが通り過ぎる。その更に後ろには火が燃えていて、人形は洞窟の壁に揺らぐ影を映している。洞窟の人間が見ることのできるたった一つのものはこの影だけで、この世にはこれしかないと思い込んでいる。しかしある時、この洞窟の人間の一人が、囚われの身から自由になる。彼が後ろを振り向いたらどうなる？ まずはそのまぶしさに目がくらみ、それまでずっと影しか見たことがなかった人形がくっきりしているのを見て驚くことだろう。そして塀を越えて火の傍らを通り過ぎ地上に這い上がったら、初めて見る鮮やかな色彩やくっきりとした輪郭に、もっと目がくらむだろう。彼は本物の動物や花を見て、洞窟の中ではそのまがい物を見ていたに過ぎなかったことに気が付くのだ。』このようなイデア界を表現することで、*A-Winds*による「あたらしい景色」をお届けします。